

「裸足の季節」 ★★★

2016（平成28）年7月17日逢寛く
テアトル梅田>

監督・脚本：デニズ・ガムゼ・エルギュヴェン
ラーレ（末っ子五女）／ギュネシ・シェンソイ
ヌル（四女）／ドア・ドウウシル
セルマ（次女）／トゥーバ・スングルオウル
エジェ（三女）／エリット・イシジャン
ソナイ（長女）／イライダ・アクドアン
祖母／ニハル・コルダシュ
エロル（叔父）／アイベルク・ベキジャン
2015年・フランス、トルコ、ドイツ映画・97分
配給／ビターズ・エンド

＜なぜ本作がアカデミー賞外国語映画賞のフランス代表に＞

第67回カンヌ国際映画祭のバルム・ドールは、ヌリ・ビルゲ・ジェイラン監督のトルコ・フランス・ドイツ映画『雪の轍』（14年）（『シネマルーム36』124頁参照）が受賞。続く第68回カンヌ国際映画祭のバルム・ドールは、ジャック・オディアル監督のフランス映画『ディーパンの闘い』（15年）（『シネマルーム37』126頁参照）が受賞した。両作ともクソ難しいけれども、見応えたっぷりの映画だった。すると、第88回アカデミー賞外国語映画賞のフランス代表も当然『ディーパンの闘い』に？誰でもそう思うところだが、そんな予想に反してその栄誉に浴したのが本作だ。それは一体なぜ？

四人姉妹の物語の映画はルイザ・メイ・オルコットの『若草物語』（49年）や谷崎潤一郎の『細雪』（83年）（『シネマルーム21』93頁参照）が代表。それに対して、本作は五人姉妹の物語であるうえ、全員が十代の少女だから、そのピチピチ度は高い。五女のラーレ（ギュネシ・シェンソイ）は13歳だ。本作の原題は、『ムスタング（MUSTANG）』＝「野生の馬」。五人姉妹のトレードマーク（自慢）は長い髪だ。本作冒頭、学校の帰りに男子生徒たちと一緒に海辺に向かった五人姉妹が、海の中で男子生徒の肩車に乗って騎馬戦を展開し、大いに奮闘するシーンが登場するが、その姿を見ていると、まさに「野生の馬」そのものだ。若さから自然に発せられるそのエネルギーに圧倒されるとともに、男たちは皆、水に濡れたブラウスやスカートから醸し出される少女たちの色気に、ついムラムラ・・・？

1978年にトルコのアンカラで生まれた女性監督デニズ・ガムゼ・エルギュヴェンの長編デビュー作となった本作が、『ディーパンの闘い』などの並みいる強豪を押しつけて第88回アカデミー賞のフランス代表に選ばれたのは、そんな少女たちが発するまばゆいばかりのきらめきのお陰だ。しかし、本作が描くその後の五人姉妹の運命は・・・？

＜トルコってどんな国？そこで生きる女性たちは？＞

トルコってどんな国？そう聞かれて、それなりの説明ができる日本人は少ないだろう。しかし、和歌山県串本町と駐日トルコ共和国大使館が「日本トルコ友好125周年記念事業」を主催した2015年に作られた、『海難1890』（15年）（『シネマルーム37』200頁参照）を観れば、1890年に起きた「エルトゥール号事件」と1985年に起きた「テヘラン邦人救出事件」という2つの史実を繋ぐ、日本とトルコの「真心の歴史」がよくわかったはずだ。しかし、中東方面でIS（イスラム過激派）による自爆テロが頻発している昨今、トルコは今どんな政情に？

本作を逢寛しながらそんなことを考えている中、7月15日から16日にかけて起きたのが、大規模なクーデター未遂事件だ。軍の一部がトルコ共和国の首都アンカラなどで橋やテレビ局などを占拠して、いったんは「国の全権を掌握した」と表明したが、政府側と反乱勢力との衝突の末、エルドアン大統領は16日、「クーデターを鎮圧した」と宣言した。同大統領は17日以降、国内の「反乱分子」を次々と拘束しているが、そのターゲットは軍だけではなく、司法関係者や野党やメディアにも及んでいるようだ。しかし、なぜ今、そんなクーデターが発生したの？今後の展開の予想は？

私にはどちらかというところちの方の興味が大きいですが、本作が描く、今なお女性差別が根強いトルコにおける、十代の五人姉妹の生きざまとは？

＜ふしだらとは？傷モノとは？何と処女検査まで！＞

日本でも明治時代は、いやいや太平洋戦争の前までは、女性に対して「ふしだら」とか「傷モノ」とかの形容詞があったが、今やそんな言葉はほとんど死語になっている。しかし、21世紀の今でも、トルコではそんな言葉が生きており、長女ソナイ（イライダ・アクドアン）、次女セルマ（トゥーバ・スングルオウル）、三女エジェ（エリット・イシジャン）、四女ヌル（ドア・ドウウシル）、五女ラーレを、亡き母親に代わって育ててきた祖母（ニハル・コルダシュ）が、堂々とそんな形容詞を使っていることにビックリ！さらに、「男たちの首に下半身をこすりつけた」ことによって姉妹たちが「傷モノ」になっているのではないかと疑った叔父のエロル（アイベルク・ベキジャン）は、五人姉妹を病院に連れて行き、何と処女検査まで！

そして、この日以来、姉妹たちは外出を禁止、半強制的に家の中に閉じ込められて、「花嫁修行」の日々を送ることに。本作前半で描かれる「その実態」は興味深いので、じっくりと・・・。

＜中盤の「大脱走」によるサッカー観戦は成功したが＞

スティーブ・マックイーン、チャールズ・ブロンソン、ジェームズ・コバーン等のハリウッドスターが集結した『大脱走』（63年）は、終盤に展開される、手に汗を握る「大脱走」ぶりがハイライトだったが、そこに至るまでの我慢強い「脱走準備」＝「トンネル掘り」の苦勞も見どころだった。それと同じように（？）、本作では五人姉妹のうち、長女ソナイ、続いて次女セルマと次々に結婚させられていく中、次第に知恵をつけ抵抗（反抗）のやり方を学習していく五女ラーレの「大脱走」への周到な計画が見どころとなる。もっとも、そこに至るまでの、まだまだ単純な五人姉妹の知恵と反抗によって一瞬の楽しみを満喫できたのが、サッカー観戦だ。

ヨーロッパではサッカー観戦の熱狂ぶりがすごいが、それはトルコでも同じらしい。しかし、大のサッカーファンであるラーレが、まもなく開催されるスーパーリーグに行きたいと頼んでも、叔父のエロルは「男だらけのサッカー場に女が行くな」とダメ出し。しかも、スーパーリーグが目前に迫ったある日、ファンの暴動によって試合会場への男性客の入場が禁止され、女性客のみが入場できることになったうえ、村の女の子たちはみんな観戦に行く状態になったにもかかわらず、エロルはそれも許可してくれない。そこで、どうしてもその試合に行きたいラーレが姉たちを巻き込んで決行したのが、本作中盤のハイライトになる「大脱走」によるサッカー観戦だ。

女の子たちが全員乗っているバスに乗り遅れるミスをおかしたものの、たまたま通りかかったスーパーのトラック運転手のヤシンの応援を得て、五人姉妹はやっとサッカー観戦を実現！ところが、それに大熱狂したのはいいが、その姿が実況中継のテレビ画面に映ったため大目玉をくらった五人姉妹は、以降「かごの鳥」状態からさらにひどい「軟禁状態」とされ、その運命が大きく変わっていくことに・・・。

＜初夜の出血チェックと、三女の自殺に唖然！＞

五人姉妹ともなると、要領の悪い奴と要領のいい奴に分かれるのは当然。本作では、長女ソナイの要領の良さが際立っている。つまり、ソナイだけはボーイフレンドのエキンに恵まれ、他の姉妹の応援も得て、彼とうまく付き合っていた。ある日などは、エロルの車の中で待っている間に、このエキンを車の中に引き込んでカーセックスにまで及んでいるから、その要領の良さはすごい。さらに、本作を見ると、トルコの女性たちの結婚相手は親たちが決めるシステムになっていることがよくわかるが、それでも本人の希望も少しは聞き入れてくれるらしい。そして、この点でもソナイは要領よく、エキンを結婚相手に推薦し、エキンとの結婚の許可ももらったから万々歳だ。

それに対して、要領の悪い次女セルマは親（叔父のエロル、祖母）が決めた相手を受け入れざるをえなかったうえ、初夜の行為の後に出血がなかったため、夫とその両親から純血を疑われ、病院に連れて行かれる羽目に。義父の腰には統まで巻かれていたから、もしセルマが処女だと証明されなかったら・・・。性体験を尋ねる医師に対し、セルマは「世界中の男と寝た」、と答えたが、それはなぜ？そして、セルマの処女の証明は？

長女、次女に続いては、三女のエジェが花嫁になる順番。長女のソナイとは違う意味で要領のいい五女のラーレはこの間、将来の「大脱走」に備えてヤシンから車の運転を教えて貰っていたが、すべてに絶望し、心が壊れてしまった三女のエジェはある日自殺してしまうことに！

＜クライマックスの「大脱走」に注目！その勇気に拍手！＞

婚礼の日、浴びるようにヤケ酒を飲み、涙を流す次女セルマに対して、「結婚したくないなら逃げて」と言う五女ラーレに対するセルマの答えは「どこへ逃げればいいのか？イスタンブールは1000km先よ」というもの。そう、黒海沿岸の小さな村からイスタンブールまでは1000kmも離れている。東京ー大阪間の約500kmは新幹線で走れば2時間半だが、ラーレの大好きだったディレッキ先生が異動したイスタンブールの学校までの「大脱走」には1000kmの道を車で移動しなければならぬわけだ。さて、その方法は？

ハリウッド映画『大脱走』に見た「脱走計画」は、綿密な計算に裏付けられたトンネル掘りだったが、それでも結果的に数メートルの誤差が生じたため、大きな危険に巻き込まれた。それに比べれば、ラーレが考えた大脱走計画はやはり幼稚なものだ。エジェの自殺を目のあたりに見たラーレは「その日」に向けて祖母のへそくりから金を盗み、アリバイ工作用の人形に自分の髪を切って縫いつける等の小細工を始めたが、さてその効用は・・・？そして、遂に今日は四女ヌルの婚礼の日。しかして、この日のためにラーレが準備した大脱走計画とは？そして、その大脱走の成否は？

ハリウッド映画『大脱走』に見た大脱走では多くの男たちが脱走に失敗し、スティーブ・マックイーン扮するヒルツも収容所に連れ戻されたが、さて、13歳の五女ラーレと四女ヌル2人の「大脱走」の成否は？その奮闘に注目するとともに、その勇気に心から拍手！